学位授与番号	甲第 1683 号
学位授与年月日	平成 17 年 3 月 22 日
氏　　名	大 江 康太郎
学位論文題目	Effects of Gender on the Number of Diseased Vessels and Clinical Outcome in Japanese Patients With Acute Coronary Syndrome 日本人急性冠動脈症候群患者の病変枝数と臨床予後における性差の影響)
論文審査委員	主 査　教 授　中 尾 眞 二 副 査　教 授　金 子 周 一 　　教 授　渡 邊　剛

内容の要旨及び審査の結果の要旨

急性冠症候群（ACS）とは冠動脈のプラークに破裂や亀裂が生じ、それに続いて冠動脈内腔に血栓が形成されて内腔が閉塞ないしは亜閉塞されるために発症する症候群で、急性心筋梗塞と不安定狭心症、虚血性心臓突然死が含まれる。近年、急性心筋梗塞の女性患者は男性患者より予後不良であると報告されているが意見の一致をみていない点も多く、また不安定狭心症患者における性差に関しても不明である。さらに、過去の大部分の報告では冠動脈造影所見が記載されておらず、日本人におけるエビデンスが確立されていない。本研究では、日本人 ACS 患者における臨床所見および予後と性差との関係を明らかにすること目的に、発症 30 日以内に冠動脈造影を行った連続 1,740 人の ACS 患者：1,408 人の急性心筋梗塞患者（A 群: 女性 361 人、男性 1,047 人）と 332 人の不安定狭心症患者（B 群: 女性 103 人、男性 229 人）について検討した。得られた成績は以下のように要約される。

1. A、B 両群において、女性は男性に比して年齢と高血圧の頻度が高く、喫煙の頻度が低かった。心不全重症度（Killip 分類）および冠動脈罹患枝数は男女間で差がなかった。
2. インターベンション治療は、A 群では女性で施行率が低かったが、B 群では男女間に差がなかった。
3. A、B 両群において、院内死亡率は女性が男性に比べ有意に高率であった。
4. 冠動脈罹患枝数と院内死亡率の関係では、A 群では罹患枝数が多いほど院内死亡率は高く、いずれの罹患枝数群においても女性が男性に比べて院内死亡率が高かった。一方 B 群では、3 枝病変と主幹部病変を有する女性で院内死亡率が高かった。
5. 多変量解析の結果、A 群では年齢、心不全の既往、脳血管障害の既往、高い Killip 分類、罹患枝数が院内死亡の独立した予測因子であった。一方、B 群では罹患枝数に加えて女性であることが院内死亡の独立した危険因子であった。
6. 以上の結果より、①急性冠症候群の日本人女性は男性と比較して高い院内死亡率を示す。②急性心筋梗塞患者では高齢であることが発症に関与している。③不安定狭心症患者では女性であることそのものが予測不良因子であると推論された。

本研究は冠動脈の罹患枝数と女性であることが急性冠症候群の予後不良因子であることを多数例を対象とした本邦で初めて明らかにしたものであり、ACS 診療におけるエビデンスの構築に寄与する価値ある研究と評価された。